

研究主題

豊かな「つながり」を大切にしたい、深い学びのある体育学習

奈良県小学校体育研究会 指導法研修会 陸上運動部会

第2回陸上部会 2019年10月29日（火）

〈授業者から〉

滑らかなバトンパスを1番のねらいにして指導案を作った。学級の実態として、今までにバトンパスを重視した学習は行われていないので、不安もある。事前のアンケートでは、リレーが嫌いな理由に、渡す人を間違えると恥ずかしいという意見があった。その不安はセパレートコースにすることにより解消できると考えた。また、接触も減るメリットがある。そのため、オープンコースではなくセパレートコースを作ることにした。テイクオーバーゾーンは10mとする。

指導の計画は全6時間で、5時間目を本時としている。2・3時間目あたりで、速く走るポイントを押さえ、練習する。4時間目から6時間目は同じ展開で行う。その流れは、場の準備、課題の確認、自分たちに合った方法を見つける、チーム練習（スタート位置をチームごとに変える）、1回目のリレー、兄弟チームからのアドバイス、2回目のリレーという流れである。チームは6チーム作り、赤・青・黄それぞれがA・Bの兄弟チームを設けて競う。50m走の記録を基にチームを分け、今回は1人40m走るため、3人で合計120m走る事となる。どれだけタイムを縮めたかを競うので、1位でなくても勝つ可能性がある。4人チームの場合は、その中の3人が走る事になる。

ワークシートでは1走者に関わる技能ポイントの確認ができないので、何か良い案があれば教えて欲しい。また、3人1チームで走る場合、毎回走る順番を変えるべきか、同じにするべきかも悩んでいる。

〈グループ協議〉

Aグループ

- ・ポイント制は、技能ポイントを明確化しやすいから良い。
- ・タイムを短縮した場合の他にも、ポイントを加算する方法を設けると良い。
- ・基準タイムを、学習の始めに40mでとって良い。
- ・1人40m、テイクオーバーゾーン10mだが、10mでは短いのではないか。
- ・バトンパスの機会をどの子にもさせてあげるため、走順は入れ替えた方が良い。
- ・バトンパスの前後関係は、固定でローテーションしていくと、パスがスムーズになるかもしれない。

Bグループ

- ・走順は入れ替える方が良い。ただし、積み重ねで自然と固定にしていくことになるだろう。
- ・4人・4人・4人・4人・3人・3人のチームでリレーを行う場合、4人チームの扱いが難しい。4人チームが3人でリレーをすとなると、毎回違う所を走る人が出てくる。練習も入れると余分に時間を使うかもしれない。
- ・4人チームだと走順の入れ替えがあり、技能ポイントを見る相手が定まらない。
- ・マークは何を使うのか。→色水の入ったペットボトル。

Cグループ

- ・縮まった秒数だけで順位を決めるということだが、3人でタイムを縮めることは難しいので、人数を多めにしても良い。
- ・走順は、単元の目標を考えても入れ替えるべき。バトンを「受ける」「渡す」それぞれの経験をさせてあげたい。

Dグループ

- ・4人チームの方が多く、運動量の確保の面も考えると、4人で走っても良い。
- ・走順は固定の方が良いが、2・3時間目くらいに確定させるとよい。
- ・ワークシートに渡すポイントの項目も入れると1走も評価できる。

Eグループ

- ・基準タイムは再度計るべきである。
- ・走順は固定の方が良い。
- ・4人チームが3人で走る場合は、練習も増え複雑になるのが課題である。
- ・ポイント制の不安な点は、子どもによるタイムの測定やメンバーの組み合わせに結果が左右されやすいことである。
- ・リレーのタイムから基準タイムを引くと分かりやすい。
- ・120mのトラックを40mで区切っている。テイクオーバーゾーン10mは短いので、1人60mにして、テイクオーバーゾーンを20mにしてはどうか。

Fのグループ

- ・4人チームで1人休憩となるのは、運動ができないので良くない。
- ・兄弟チームから1人借りてきて全部4人チームにする。ただし、練習で2回とも走らなければならない子が出てきてしまう。
- ・4人チームは4人、3人チームは3人で走るのも良い。

- ・ 4人チームを1人30mにしてチームで120m走ると総合距離は同じにできる。
- ・ 走順を変えらるとなると練習パターンが増えすぎる。固定すると練習パターンは減るが、全員にバトンの受け渡しを経験させられない。単元のはじめの方で経験させ、後の方で走順を固定させていくとよい。
- ・ 走順を固定すると、1走・4走の評価をどうすれば良いのか。
- ・ 50m走の記録はかなり前なので、直近の40m走のタイムを計るべき。ただ、なかなかタイムは切れないので、第1時にするタイムを基準にすると伸びが実感できる。40m走のタイムを足したものを目標タイムにすると良い。
- ・ 4人チームで160mとすると場の設定が難しくなるのかもしれない。

<授業者より>

- ・ 4人・3人チームの扱い（4人チームで余る1人、3人チームで足りない1人）について意見をほしい。
- ・ 3人にした理由は、兄弟チームを作り、ポイントの見合いさせるため。2チームでは寂しいので、3チームにした。

<意見交流>

- ・ レースでなければ、2チームでも問題ないのではないかな。
- ・ バトンの受け渡し両方を行わないのが1走・4走なので、ゴール後4走から1走にバトンを渡してはどうか。
- ・ トラック外にスタート位置を設けると、テイクオーバーゾーンをある程度直線にできるのではないかな。90cm幅のコースで行うバトンパスはかなり難しい。

<岩垣先生からの指導助言>

- ・ バトンパスの技能の評価は、チームでの滑らかなパスを見るのか、個人の技能を見るのかによっても違ってくる。個人の技能は、直線でパスの練習をしている時に、個別に見ていけばよいのではないかな。
- ・ 今回の授業のねらいは着順ではなく、タイムを縮めることにあるので、4人全員で走るほうがよい。
- ・ 友達の良さや考えを認めるという観点からも、走順を入れ替えて走るとよい。
- ・ バトンパスの見合いの際、ポイントの指示の仕方を明確にするなど、共有する時間が大切である。
- ・ ポイント制は、縮めたら何ポイントではなく、縮まらなかった場合でも得点を与えてもよいのではないかな。毎回、タイムが縮まらないチームがあるかもしれないのでポイントの幅をもたせるとよい。
- ・ セパレートのコースにしたのは、事前に調査した子どもの実態を踏まえている。授業を

工夫していくうえで、大切なことである。

- 次回の授業での参観ポイントを部会として絞ってほしい。また、技能だけでなく、思考力・判断力・表現力などもバランスよく身に付けていくことも大切にしてほしい。提案授業なので、課題だったところを部会として考えていけたらよい。部会の積み上げを目指してほしい。